

しが国際協力親善大使レポート

ばんば のりふみ
馬場 徳文さん

隊次：2018年度2次隊

職種：体育

派遣国：ヨルダン

自己紹介

滋賀県出身。協力隊を受けたきっかけは、大学院在学中に指導教官の先生に勧めて貰ったのが最初です。今までスポーツに携わってきて、それを活かして国際協力出来ると思い志願することにしました。その後、滋賀県の中学校で教員をした後、2018年度2次隊で派遣される事になりました。

活動されている国、地域の気候や文化

ヨルダンは、全国民の9割がイスラム教徒であり、生活がイスラム教と密接に関係していると思います。日本で生活していた時には、イスラム教とは接点がなかった為、活動当初は戸惑いの連続でした。

気候は、乾燥していて、雨が少ないです。しかし、日本で想像していたのとは、まったく違う気候でした。中東という気温は高く、冬でも暑いイメージでした。しかし、気温は活動先の地域では日本より涼しく、冬は寒く、雪も降りました。家の中でも非常に冷えます。

活動や生活について

活動先は、パレスチナ難民キャンプの小学校です。小学校で体育の授業を現地の教員と行います。日本と大きく環境が違う中で毎日悪戦苦闘の日々です。

一クラス50人前後の生徒数、小さなグラウンド、体育道具の少なさなど厳しい環境です。しかし、生徒は体育が大好きで、体育の授業がある日、生徒から「体育がある？」と言ってきます。その時の生徒の表情を見ると頑張ろうと思います。

生徒は、身体能力はお世辞にも高いとは言えないのが現状です。そして、ルールを守るなどの規範意識も低く、喧嘩も常に起こってしまいます。その中で、日本で行われる体育やルールを守るなどの規範意識を高めるような授業を行いました。大縄では、100回跳べる様な生徒が現れたり、ビブスを畳むなど後片付けも出来る様に徐々になってきました。その姿を見ると、指導して良かったと思います。喧嘩は現在でも起こりますが、徐々に減って来たと思います。喧嘩しそうになったら、ジャンケンをする様にしています。ヨルダンのジャンケンは、日本と同じルールです。【ハジャラワルカムカス】がグーチョキパーで日

本の生徒と同じ様にします。日本と異なるのは、日本ではジャンケンで決めると文句を言う生徒がいますが、ヨルダンではジャンケンで決めた方が仲良くしている印象です。それは、イスラム教のアッラーが決めたという風に思っているのかと思います。そういう場面を見ると、文化の違いが出てすごく面白いです。

現地教員の協力によって2回の校内運動会を開く事が出来ました。最初は、教員の中でも運動会をイメージすることは難しく、日本の運動会の写真を見せたりして、その様子を紹介することから準備を進めました。準備の段階で現地教員とぶつかることもありました。そして、しっかり準備しようと厳しい言葉を生徒に掛けたこともありました。しかし、2回の運動会の中で、現地教員や生徒の真剣な姿を見られたことは、とても印象的でした。

普段の学校生活において、イスラム教が密接に関係しているのだと思います。学校でお祈りをする教員や生徒を見ます。日本においてラマダンは、非常に厳しく、苦しいものだと思っていました。しかし、彼らと学校生活する中で、そのイメージが変わりました。ラマダン期間中は、多くの生徒が断食出来ていると誇らしく言ってきて、断食が出来ると大人への一步を踏み出した通過儀礼の様なものだと思います。その姿は、微笑ましいものでした。



普段の授業

普段の体育授業にて生徒を整列している様子



運動会

現地教員と一緒に運動会を開催した様子



子供にゼッケンを着せて、チームを分かれた様子